

表 1.28 影響予測手法の検討内容(造成工事の実施)

影響要因	想定される影響と予測手法の検討内容
造成工事の実施	<p>想定される影響 造成工事における地盤の掘削等によって汚濁物質が発生し，これが地下水に混合し，下流側の地下水水質を悪化させる可能性がある。</p> <p>予測手法の選定 下記の理由から，差分法による三次元解析によって，地下水流動の変化を予測することとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 汚濁物質の移流・拡散をもとに，地下水質の悪化を定量的に予測する必要があること</li> <li>・ 上記について，三次元的な地質構造を考慮した予測を行なう必要があること</li> </ul> <p>三次元解析における諸条件の設定</p> <p>予測範囲 存在時の予測と同様のモデル(造成による影響を受けない範囲も含めた，東西方向 2,500m・南北方向 2,000m の計算領域)とした。</p> <p>予測モデル 存在時の予測と同様のモデルとした。</p> <p>予測内容 造成地下流側に設置される沈殿池から浸透した汚濁物質の移流・拡散状況について，非定常計算で予測を行なった。</p> <p>予測時期 造成工事計画をもとに，地盤の掘削開始時点から 30 日後，100 日後，200 日後の予測を行なった。</p>